

## 金婚旅行

私達が結婚したのは昭和二十七年（一九五二）三月十一日である。去年平成十四年の結婚記念日で満五十年になった。

前年十三年にはハワイ旅行に行ってきたが、ツアーのバスの中で、バスガイドさんからカップルの結婚年数を聞かれた。二十年、以内のカップルが多い、私は五十年と言ってしまった、正確には四十九年だが足掛け五十年だ。

東京の妹夫妻と同行したのだが老いた私達をよく面倒見て呉れ助かり有り難かった。

去年は妹夫妻と相談、“あつたか沖縄大周遊四日間” ツアーに参加する事にした。出発日は二月三日で午前八時羽田発、一時間前までには空港に到着していなければならぬ。

新幹線一番列車で行っても間に合わない、妻は二日の夜仙台を立ち羽田空港付近の旅館に泊まつたらと言う、時間と経費の無駄だから何かいい考えが無いものかと、いろいろ調べた。

東北急行バスで、仙台を夜十時に出発、東京浜松町に朝五時に着く便があることが分かった。料金も新幹線の半分位だ。早速申し込み、その旨を妹、とくちゃんに伝えた。

出発間際になって愛用のデジカメが故障しているのに気がついた。デジカメで思い出を取りまくるのを楽しみにしていたのに残念である。洋一が愛用機を貸して呉れた。

時間通りに東北急行バス営業所前を出発した。岩沼、大河原、白石等JR駅前まで客を拾い福島から高速道に入った。東京浜松町に予定より早く到着、生まれて始めてのモノレールに乗り羽田空港に向った。

空港待合室は人の波であった、とくちゃん達はまだ着いていないだろうと思いつながら、何処まで来たのだろうかと携帯電話で呼び出してみた。もう着いて人波の中に居ると言う、団体力ウンター前で遭う事が出来た。

一切の手続きはとくちゃんが済ましてくれた。飛行機の席も四人一列の席で、女同士姉妹は隣合わせ、私と征司さんはその隣と快適な空の旅だった。

那覇空港に着き、無事往路の旅を終え、早速周遊が始まった。一番先に“ひめゆりの塔”に行った。日米戦争末期の乙女達の自決の場所に思いを馳せ涙ぐみ、デジカメで撮りまくった。

昼食後、琉球ガラス村に行き、ガラス工芸の素晴らしい作品を鑑賞、記念に妻は気に入った花瓶など三・四品求めた。

平和記念公園を散策。公園の高台から亜熱帯の樹林と、水平線ごと飛び込んでくる蒼い海に見とれ、有料道路を通り沖繩本島の北はずれにある、リゾートホテル“ベルバライソ”に着き旅行の第一夜を過ごす部屋に入った。

二人ずつ隣合わせの部屋だった、ホテルの前は砂浜海岸である。ぐつすり眠れ目を覚まして窓より海を眺めれば、もう海岸を散歩している人達がいる、日本一暖かい県だ。

二日目の周遊の最初は史跡今帰仁城跡から始まった、今帰仁城は桜が満開、沖繩の桜はピンク色で、木は背が低い。昨日の予定から外れた東南植物楽園では、トロツコ電車に乗り一周、龍宮城や、何年か前に沖繩で開催した海洋博の跡に出来た記念公園ではイルカのシヨウを見、写真に収め、やんばる亜熱帯園、パイナップルパーク、琉球村、万座毛、ハブセンター等を見物、琉球村、万座毛ではバス一台四十二人現地のバスガイドさんも入れ記念写真を撮った。

二日目のホテルは恩納村（おんなむら）にある“ホテルみゆきビーチ”で私達には豪華すぎる程だった。

三日目は恩納村から少人数で船底がガラスの快速ボートに乗り陸地を離れ、海中の多くの魚類をデジカメに収め、上陸後鍾乳洞のある、天然記念物玉泉



洞に向った。

鍾乳洞内の暗闇を散策、シヨツピングセンターで面白い物、椰子の実を買い女達二人してストローで仲良く飲んでいる光景が何とも云えない。時々思い出している。椰子の汁は美味しかったと話している。仲の良い姉妹の微笑ましい写真が残っている。

黒糖工場を見学、周囲の公園を歩きまわり、喫茶店でコーヒー、暗くなつてから劇場に入り、夕食しながら琉球踊り等シヨウを楽しみ、沖縄最後の夜を過ごす、那覇市内の“パシフィックホテル沖縄”に着いた。

復路の飛行機は一二・〇〇那覇空港フライトであるが、残り時間を惜しむ如く、首里城公園に向った。守礼門前でツアー一同に美しく着飾った沖縄娘が入り記念写真を撮り、又私達四人も城壁前で写し、広い城内を睨に収め、飛行場に向った。

とくちゃん達と羽田で別れ、東京発の新幹線の大宮以北は仙台までノンストップの便に恵まれ、一時間四十分で到着、駅の食堂で夕食を済ませ楽しかった思い出を胸に、無事我が家に帰った。

思い出の写真帖をつくりタイトルに（金婚旅行）と記した。二冊は私が写したデジカメ写真。三冊目は征ちゃんが写して送ってくれた写真、どちらも上出来。デジカメ写真を沢山とくちゃんに送った。我が家の宝の写真帖である。

